

研究分野	資源生態	部名	資源管理部
研究課題名	「青森ヤリイカ」ブランド化推進事業		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.17 ～ H.18		
担当	伊藤 欣吾・廣田 将仁（総合販売戦略課）		
協力・分担関係	北海道大学		

### 〈目的〉

全国一の生産量を誇る県産ヤリイカのブランド力及び産地価格向上を図るため、首都圏をターゲットにした提案営業型の流通チャネルを導入し、ホテル・レストラン等へ供給する流通業者が需用に応じた量を計画的・安定的に仕入れることができるよう、漁況予測やその情報などを効率的・効果的に伝達する手法や、安定供給を図るための資源管理手法を開発する。

### 〈試験研究方法〉

調査は下表のとおりである。

調査項目	内 容	H17	H18
1. 漁況予測手法・資源管理手法開発（水産総合研究センター担当）		○	○
試験船トロール調査	資源量を予測するため、八戸沖の未成熟個体の分布量を調べる。	○	○
海況モニタリング調査	漁場配分を予測するため、産卵場水温、初期生活期水温、流量を調べる。	○	○
漁獲量の予測	予測手法を開発し、漁場別の漁獲量、魚体サイズを予測する。	○	○
漁獲統計調査	生残率、漁獲率を解析するため、漁獲量を詳細に調べる。	○	○
生物測定調査	生残率、漁獲率を解析するため、八戸と大戸瀬漁協で各月、各銘柄100尾を生物測定する。	○	○
DNA分析	本県と同一資源の分布域を明らかにするため、各海域100尾をDNA分析し集団解析を行う。	○	○
管理手法の開発	資源管理方策を検討し、資源管理後の漁獲シミュレーションを行う。	○	○
2. 産地情報発信手法開発（総合販売戦略課担当）		○	○
市場流通調査	首都圏の流通実態を調べる。	○	○
生産地流通調査	県内の生産地側からの流通実態を調べる。	○	○
生産状況調査	県内の生産量、規格、鮮度保持等の状況を調べる。	○	○
マーケティング戦略調整	提案営業型の流通チャンネルにおける、仲卸業者と生産者側との調整を行う。	○	○

### 〈結果の概要・要約〉

#### 〈漁況予測手法の開発〉

予測の対象は冬季来遊群とした。海域は渡島支庁、青森県および岩手県、期間は8月～翌年2月。平成17年11月16日に関係漁業協同組合等へヤリイカ分布状況の情報提供を行った。その情報の内容は、10月中旬に実施した八戸沖のトロール調査の結果、ヤリイカ分布密度は前年よりは多いものの一昨年並み、ヤリイカの体サイズは過去5年間で前年に次ぐ大きさ、重回帰モデルによる漁獲量予測は前年並であった。平成17年12月15日に関係漁業協同組合等へヤリイカ冬季来遊群の漁況予測を発表した。その予測内容は、漁期序盤（8～11月）の漁獲量、トロール調査によるヤリイカ分布密度をもとに、今期漁獲量（8月～翌年2月）は前年並の約1,600トン、また、本県日本海海域における今期漁獲量（8月～翌年2月）は前年並の約570トンと予測した。予測の結果は、概算ではあるが、おおむね的中した。なお、春季来遊群については、未成体期の分布の中心が明らかになっていないため、漁況予測の手法が確立できなかった。

#### 〈資源管理手法の開発〉

本県ヤリイカの分布域を明らかにするため、遺伝学的手法、漁況学的手法および標識放流法により資源構造を検討した結果、本県ヤリイカと同一の資源は、石川県以北の日本海側と岩手県以北の

太平洋側に分布していると推測された。この資源の漁獲量は産卵期～初期生活期の水温と正の相関関係が見られ、水温が資源変動に関係している可能性が示唆された。また、生物測定調査の結果、11～12月に漁獲されるヤリイカは未成熟個体が主体になっており、単価も安いことがわかった。未成熟個体の漁獲は、資源を有効利用しているとは思えなかった。

＜産地情報発信手法の開発＞

水産物 MD 企画企業と意見交換し、ヤリイカ漁況予測が MD 企画に有効であり、その予測は盛漁期の 2 ヶ月前が有効であることがわかった。本県および首都圏の流通実態を調査した結果、日本海地区の首都圏出荷が 2 日後 (D2) になっている場合もあり鮮度低下しているケースがあること、海水氷梱包による鮮度保持方法を採用したものの評価が高いことがわかり、翌日着荷 (D1) の物流形態による試験流通および海水氷梱包による試験流通を行い、それぞれ首都圏で高い評価を得て、これらを組み合わせることにより付加価値が得られることが分かった。その結果、産地価格でおよそ 1～3 割向上した。

また、今期は三陸～関東方面の漁獲が多かったことから、首都圏での価格が例年よりも安い一方、北海道の相場は高かったことから、本県の水揚げ相場は高値が形成され、日によっては首都圏市場価格よりも本県産地価格の方が高いことがあった。

＜主要成果の具体的なデータ＞

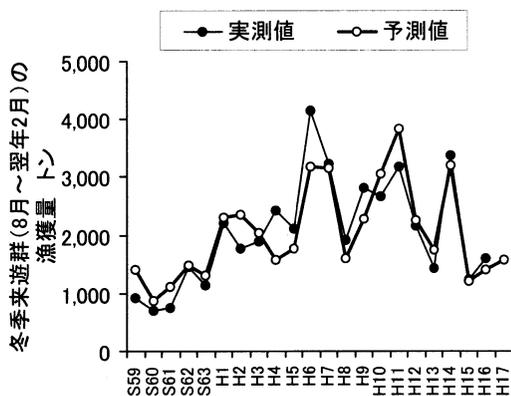


図1 冬季来遊群の漁獲量予測の結果

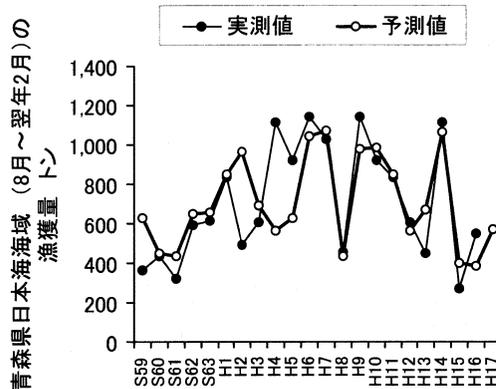


図2 冬季来遊群のうち青森県日本海の予測

＜今後の問題点＞

春季来遊群の漁況予測手法の開発、資源管理の漁獲シミュレーション、および MD 実証試験と首都圏以外の MD 市場開拓。

＜次年度の具体的計画＞

今年度と同じ計画。ただし、上述の問題点を重点的に行う。

＜結果の発表・活用状況等＞

日本海地区の漁業協同組合にヤリイカの分布調査結果、漁況予測を発表。

漁業士会日本海支部・日本海地区青年部でヤリイカ漁況予測と生態について口頭発表。

平成 17 年度イカ類資源研究会議でヤリイカの外套長組成と性比の年変化について口頭発表。

平成 17 年度日本水産学会東北支部・北海道支部合同大会でヤリイカについて口頭発表。

2006CIAC でヤリイカの漁獲変動に及ぼす海洋環境の影響についてポスター発表。